

早稲田大学芸術学校 2016年度学校評価（自己評価）

はじめに

早稲田大学芸術学校は1911年の早稲田工手学校創立以来100年有余の歴史を有する夜間の教育機関である。2010年度には建築教育に特化した専門学校として建築科・建築都市設計科の2学科体制に再編され、広く社会に開かれ、社会人・学生を問わず多様で優れた人材を受け入れながら、芸術・工学分野を横断した独創的で実践的な建築教育を行ってきた。

本校では、以下の教育理念の下、第一線で活躍する建築家や大学教授陣による少数精鋭主義をモットーとした、丁寧できめ細かな指導が行われ、優れた教育成果を上げている。

《教育理念（AA Idea）》

①共につくる collaboration

学生と教員が建築都市のデザインを通して一体となり、次世代に向けての新しいメッセージを共に創り出します。

②個性をのばす one on one teaching

各人に秘められた個性を発見し、その一人一人の個性を最大限に伸ばすために、スタジオ型による個別指導を行います。

③総合芸術としての建築をめざして toward the art and architecture

文系・理系の領域を超えた文理融合型の教育方針に基づき、建築を中心として様々な芸術分野を統合した新しい建築芸術を目指した高度建築家の育成を実現します。

現在、本校では、Waseda Vision 150 芸術学校将来構想に掲げた「総合芸術としての建築」を標榜する高度建築家養成機関として、世代や国籍を超えた優秀な高度建築家を多数輩出し、新しい「建築の早稲田」のブランドを高め社会に貢献することを目指し、教育活動および学校運営体制の改善に努めており、本学校評価はそれらに向けた諸活動の到達度確認、今後の課題の整理および改善策の検討・実現に活用される。

2016年度学校評価（自己評価）では、本校の現状を概観するとともに、新カリキュラム計画および広報活動に関する事項に重点を置いて評価を実施した。

I. 学校概要

学科は建築科（2年制）と建築都市設計科（2年制）から構成されており、両科とも1・2年次は共通のカリキュラムとなっている。

建築科は製図などの実践的導入基礎教育を中心とした1年次の〈ベーシッククラス〉と、応用・専門教育を中心とした2年次の〈プロフェッショナルクラス〉の2年制とし、卒業時に二級建築士の受験資格が取得でき、卒業後4年以上の実務期間を経てから一級建築士の受験資格が取得できる。

建築都市設計科は、建築科と共通の2年間に建築デザインについてより高度なデザインの専門性をプラスした3年次の〈ディプロマクラス〉を加えた3年制とし、卒業時に専門士の称号および二級建築士の受験資格が取得でき、卒業後3年以上の実務期間を経てから一級建築士の受験資格が取得できる。

また、本校が早稲田大学の専門学校である利点を活かし、本校と早稲田大学創造理工学部建築学科による授業連携として、学習機会の拡大と学生の相互交流および教育活動の活性化を目的とした特別聴講制度が2015年度に開始され、同制度に基づく科目の相互履修が行われている。さらには、2015年度より大学院創造理工学研究科建築学専攻修士課程に芸術学校専任教員による建築芸術論研究室が開設され、専門学校と大学院とのユニークな一貫教育体制がスタートした。この一貫教育体制により、建築都市設計科（3年制）には、大学院（修士課程2年制）との計5年間で国家試験受験資格と専門士の称号が取得でき、大学院修了時には修士の学位が授与される。なお、学士の学位を有する本校建築設計科卒業生（卒業後2年以内の者）を対象とした大学院創造理工学研究科建築学専攻修士課程への推薦入学制度（特別選考制度）も準備されている。

II. カリキュラム

本校では夜間開講という特長を活かし、早稲田大学の教授陣に加え、第一線で活躍する建築家や実務家など各専門領域で活躍する講師陣を招へいし、建築デザインに特化した短期集中型の分野横断的なカリキュラムを実現している。文系・理系の領域を超え、建築をとりまく様々な分野を融合し、総合力ある新しいプロフェッショナルの育成を目指している。

授業は月曜日から金曜日、前段 18:15～19:45、後段 19:55～21:25 に行われており、春学期（4/1～9/20）と秋学期（9/21～3/31）との2学期制となっている。授業実施日・休業日などの学事日程は早稲田大学暦に則して定められる。

（1年生）

「1年次の〈ベーシッククラス〉では「ドローイング」をコンセプトテーマにした製図・模型表現などの基礎能力を養う」

建築に必要な知識と技術の基礎を総合的に学ぶことを目標とし、最初の演習科目となる建築設計表現では、図面の描き方、読みとり方等を学びながら、建築を支える基礎知識を習得する。講義科目も含めて建築をデザイン・構造・設備・環境・材料など様々な基礎的

観点から総合的に捉えつつ、同時に図面を通して「建築とは」という視点を学ぶ。設計演習の後半では前半で学んだ基礎力をもとに、住宅を題材にしてその応用を学び、最終課題では住宅設計の課題に取り組む中で、設計の基本的な考え方・図面表現・デザインなどを総合的に学ぶ。

（2年生）

「2年次の〈プロフェッショナルクラス〉では“エスキス”をコンセプトテーマにしたデザイン演習による専門的な応用能力を養う」

1年次で学んだ総合的基礎力をもとに、デザイン論、都市論、歴史、構造、生産、法規などの各分野で、より高度で実践的な建築の理論や技術を総合的に学び、展開することを目標とする。総合演習としての建築設計計画では、1年次に習得した図面の表現力を前提に、美術館、集合住宅、宿泊施設など実際の敷地を想定した課題に取り組み、敷地の読み取りや考え方を敷地模型の制作等を通して学習し、その上で建物のプログラムを検討しながら空間の構成やデザインをエスキスして、最終的に図面や模型によって総合的に表現する方法を学ぶ。（※エスキス（仏）：手を使ってスケッチしながら案を推考すること）

（3年生）

「建築都市設計科の最終学年である〈ディプロマクラス〉は“ディプロマ”を目標としたユニット制によるスタジオ型個別指導で、より高度な専門性を目指す」

連続的に与えられるテーマ課題の設計実技が集中的に行われ、最終的には自主テーマである卒業設計をもって卒業が認定される。曜日ごとに決められた担当教員とそこへ配属される学生によって構成されるユニット内での多様な指導を基本とし、計画、デザインに関するマンツーマンの少数精鋭の集中的で濃密な個別指導を行い、1年間という短期ながら各個人に潜在する能力を発掘し、実践的に通用する高度な専門能力を養う。

デザインを中心とした高度な専門性を目指し、各ユニットでは少数精鋭指導をもとに、それぞれのフォルムデザインをもって演習課題が独自に展開される。各演習課題の途中には、計画理論、建築作品の事例解説などの講義を行い、中間発表を経て全体の講評会を行う。最終的には演習課題で身に付けた理論と実践力をもとに卒業設計に臨む。

Ⅲ．2016年度重点項目（自己評価）

2016年度、早稲田大学芸術学校は次の各項目を重点目標として設定し、その教育活動および学校運営の改善を図った。以下、各目標についてその進捗状況を報告する。

1. 新カリキュラム計画の推進
2. 広報活動の見直し

3. 学校運営・指導体制の見直し

1. 新カリキュラム計画の推進

2018年度に導入することとなった建築デザイン・芸術表現中心の新カリキュラムの詳細計画について引き続き検討を進め、新たなコンセプトに基づく教育テーマの設定、およびそれらに対応する配当科目やその内容、イメージする担当教員像などについて学校内における議論を深めた。

また、新カリキュラムに包含する形で、専門学校である本校から大学院（本学大学院あるいは海外を含めた他大学大学院）への進学希望者を支援するための大学院進学プログラムについて、その具体的内容の検討を引き続き進めた。

なお、「Waseda Vision 150 実現のための教員増を伴う学術院等将来計画の支援策」に対する計画調書において申請した教員の増員計画については認められなかったものの、専任教員および任期付教員各1名の後任者採用（2017年4月1日嘱任）が決定し、新カリキュラム実現を支える教員体制の整備に一定の目処がついた。

今後は、新たなカリキュラムの内容や移行手順等について本校運営委員会における意思決定手続きを経るとともに、新たなコンセプトから導き出される配当科目や教員人事等についても検討を進め、2018年4月の運用開始に向けた各種手続きや準備作業を加速することが課題となる。

2. 広報活動の見直し

本学学部在籍する文系学生を主とした入学希望者掘り起しのため、例年、西早稲田キャンパスでのみ実施していた学校説明会を、新たに早稲田キャンパスと所沢キャンパスにおいても各1回試行的に実施した。

また、Web媒体による新たな広報活動として、外部求人情報サイトへの新規広告掲載やインターネット広告の配信などを展開した。併せて、2016年度始めの本校ホームページのリニューアルを機に、アクセス件数増に向けたコンテンツの充実やタイムリーな情報提供などの対応を適宜行った。

今後は2018年度入学希望者を対象に、新カリキュラムの内容を中核とした広報活動を企画・展開することが喫緊の課題となる。これにあたり、昨年度に引き続き、西早稲田以外の各キャンパスにおける学校説明会の実施、Web媒体やインターネットツールを活用したより効果的な広報戦略の検討、実施について重点的に推進する。

また、建築・デザイン関連の組織や団体をターゲットとした広報強化により、本校の知名度とプレゼンスの向上を図り、それらを通じた学生リクルーティングの拡大を目指す。

3. 学校運営・指導体制の見直し

本校専任教員および任期付教員各 1 名の後任者採用決定(2017 年 4 月 1 日嘱任)に伴い、これら新任教員を含めた新たな布陣による 2017 年度以降の学校運営・学生指導体制および職務上の役割分担について検討を進めた。

今後は 2017 年度新任教員 2 名（専任教員 1 名、任期付教員 1 名）を含めた専任教員および任期付教員について、職務における役割分担の明確化を図り、学校運営の円滑化、活性化を図るための体制づくりが課題となる。

また、2018 年度の新カリキュラム移行および大学院進学支援プログラム開設に向けた新たな学生指導体制の検討を進める一方で、旧カリキュラムが適用される在学生（2017 年度以前入学者）への十分な説明、適切な指導やケアについて万全を期するものとする。

以上